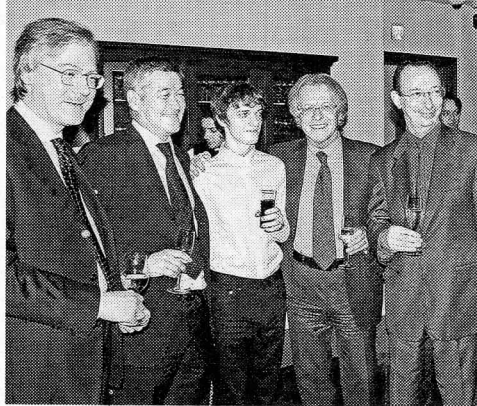


「太陽光の利用 日本も促進を」

創立三十周年を迎えたイタリアの高級ピアノメーカー「ファツィオリ」社長のパオロ・ファツィオリ氏(左)が来日した。「こちら特報部」のインタビュアーに応じ、今後より品質を高めて多くのピアノリストに愛されることを目指すとともに「脱原発」への思いも語った。(野呂法夫)

自社の電力 3割は「パネル」



十一日夜、東京・南青山のイタリア料理店。日本総代理店ピアノフォルティ社(アレックス・ワイル社長)の開設三周年を兼ねた記念式典が開かれた。ファツィオリ氏はまず、「大震災や原発事故」に反対してきた。再生可

右から2人目がパオロ・ファツィオリ氏。左端がピアノリストのスタンisラフ・ブーニン氏。11日、東京・南青山で

故に衝撃を受けた。被災者の皆さんが騒ぐことなく、耐えたのは素晴らしい」と見舞いの言葉を述べ、「この危機を日本国民が胸を張って乗り越えられるだろう」と期待した。

同氏が「脱原発」を語ったのは、イタリア国民が原発復活を退けた今年六月の国民投票を尋ねたときだ。

「ちよつと待って」とポケットからスマートフォンを取り出し、一枚の画像を見せた。同国北東部サチーレにある本社の製造工場の屋根に太陽光発電のパネルが敷き詰められていた写真だった。

「私は物づくりのエンジニアとして原発に反対してきた。再生可能な工学的な電気に賛成している」。今年五月一日、念願の発電を開始。工場では年間百台以上のグランドピアノを生産するが、必要な電気使用量の三分の一は太陽光エネルギーの利用で賄うという。

同国では太陽光発電は伸びているものの、再生可能エネルギー自体がまだ少ない。現在は、天然ガスや石油が原料の火力発電に主に依存しているが「電気の源の一番が『石油の井戸』であってはならない。太陽光利用の道を選び、研究を強めるべきだ」と強調した。

日本に対しても「十分に能力があり、進めてほしい。建物の屋根に太陽パネルを設置していけば、将来その国に必要な電気の40%は賄える」と訴えた。